

スマイル タウン

2022
3・4
月

第318号

ひの社会教育センター は、市民のみなさまの
“やりたい”を実現し、「豊かなくらし」を応援する
施設として、1969年に日野市と勤社会教育協会が
協定書に基づいて設立しました。
今月もセンターで生きがいを味わう沢山の
市民の方々の活動をお伝えします。

ひの自然学校



ここから始まる生涯の楽しみ

- シリーズ 「SDGsを自分ゴトにしてみた！」⑥
- 表紙の講師は…ひの自然学校リーダー 五十嵐民夫さん（がらさん）
- 2021年度 “まなび” と報告
- センターからのご案内 賛助会・寄付お礼

SDGs を自分ゴトにしてみた！

2030 年に向けた国際コンセンサス「SDGs」。センターのある日野市も SDGs 未来都市に指定され、様々な所で 17 個の目標ロゴマークを目にするようになってきました。SDGs の目標はどれもシンプルでとても大切そう。しかし、この目標を達成するには自分たちに何ができるのでしょうか。

今年度はひの社会教育センターの職員がそれぞれ関心のあるテーマを取り上げ、「自分ゴト」としてとらえ、その分野の実践家や専門家と対談しながら SDGs の取り扱い方について考えていきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



シリーズ

「SDGs を自分ゴトにしてみた！」⑥

8 「働きがいも経済成長も」

今回のテーマは「働きがいも経済成長も」の項目より、8.7の『すべての児童労働を終わらせる』という目標について、みなみだいら児童館（ひの社会教育センターが日野市より受託運営）職員・坂口翼が、高校の同級生であり、認定NPO法人「ACE」で活動する杉山綾香さんにお話を伺いました。

ACE は主にインドとガーナにおいて、子どもたちが児童労働から守られ、子どもの権利が保障されるようになることを目指し活動する団体です。

児童労働とは？ACEの活動について

坂口…まずは団体の主な活動内容を教えてください。

杉山…インド、ガーナで活動しています。また、2016年から日本の児童労働調査を始め、現在はSNSやイベントを通じて、啓発の機会をつくっています。

成り立ちは、97年に児童労働問題を伝える「児童労働に反対するグローバルマーチ」を日本で実施するため学生5人で始めたのがきっかけです。当初は期間限定の活動だったのですが、25年間活動を続けています。

坂口…杉山さんご自身はどういう経緯で、ACEで活動しているのですか？

杉山…中学時代をインドで過ごし、自分と同じくらい年齢の子が、ストリートチルドレンとして生き、働いていることを目の

当たりにしたことが原点です。日本人学校で、それは「児童労働」で「なくせるもの」だということを教わり、学生時代からACEにボランティアとして関わってきました。

子どもの頃に経験したことは、どこかで花が咲く、と感じます。子ども達と話すワークショップなどでは、児童労働問題を伝えつつ「NGO職員として働く」という職業選択肢もあることも意識して活動しています。

坂口…日本の児童労働で、把握しているケースはどのようなものがありますか。

杉山…日本の場合、労基法で禁止していても、18歳未満の子が危険有害労働に就き、児童労働に該当する場合で、怪我をしたり亡くなったりする事件が起きても「児童労働である」とニュースにはならないことが多いです。そのため、何が児童労働にあたるのか、というところから整理して周知徹底したり、労働環境を守ってもらうためのリーフレットを作成・配布して啓発活動をしています。

坂口…そうした発信は大切なことですね。児童労働・危険有害労働の中に、児童ポルノ・児童売春も含まれると聞いても、日本ではリンクしてないように感じます。たとえ犯罪に巻き込まれても「家出少女・非行少女」のように非難されてしまうイメージです。メディアの伝え方による影響は大きいと感じますが、本当は被害者なんですよ。

杉山…子どもが権利の主体者であり、同時に守られる存在であるということを、子どもたち自身にも知ってもらいたいです。

坂口…以前、児童館を利用していた子が危険高所作業のアルバイトをしていたことを思い出して、児童労働だったと今回初めて認識しました。

昨今は、SNSなどを通じて犯罪に巻き込まれたり、結果的に児童労働につながるケースがあります。

杉山…坂口さんの話を聞いて、私も学びが深まりました。危険な働き方や大人との接触は、いつどこにあるか、本当にわからないです。自分達もどう子ども達と接したらいいかということをややアップデートしている状況です。

廃止目標は2025年まで。その理由。

坂口…SDGsは2030年までの目標ですが、児童労働を無くすという目標が「2025年までに」と5年前倒しなことの理由は何でしょうか。またゼロに近づけるためのプランはありますか？

杉山…推察ですが、目標4に「すべての子に教育を」と掲げられているので、5年前には労働を無くし、30年には教育を受けられるようになっていくという目標なのではないかと思っています。

現在、世界では1億6千万人の子どもが児童労働に携わっていて、10人に一人の割合です。

プランとしては、まずは開発途上国の教育政策、社会保障などの整備です。児童労働をしている子どもは、親が教育の機会がなかったケースが多いです。なので、親がしっかり稼げるようになる環境を作ること、教育の大切さを認識してもらうことが重要です。そして先進国、いわゆる消費国側の要因として、物の原材料に児童労働が関わって

いることを知ること、ACEではガーナのチヨコレート、インドのコットンを中心に伝えてきていますが、児童労働があることが前提で起きているビジネス環境を変えることです。そうしたことを解決する手立ては、もちろん予算もありますが、人々の意識を変え、もちろん大事で、そこには地道な努力しかないと感じます。世界会議などで優良事例を共有し合う場もあり、達成への道筋はここ10年で見えてきています。

坂口…近道はないから地道にやっていくということですね。

増加する児童労働。コロナ後は…

坂口…コロナの影響で日本でも「失業」「貧困」などが増えていることを、肌感覚で感じます。

杉山…まん延前のリサーチで、児童労働者数の増加を把握していましたが、コロナ後はさらに増えることが予測されます。

インドやガーナもロックダウンや休校の影響で、学ばない子が取り残されているケースもあります。ガーナの支援地では、保護者から子どもたちの学校給食を維持するために寄付が集まり、「問題意識を持ち、よりよくしたいと思ったときに、人は行動を起こす」ということを感じた出来事でした。

坂口…子どもの学力の低下は、経済成長を止めることにもつながるのではないのでしょうか。

杉山…関わりがあることだと思っています。例えば日本での活動の中で、子どもたちに話を聞くと、子どもの意見も聞いてほしいかつ

たという声が入ります。休校や部活、修学旅行の中止などの決定を下す前に、子どもの私たちにも意見を言う権利はあったよね、と。「アイデア創出に自分たちも関わりたい」と、意見を表明する権利を意識させてあげるには、大人側のスペースがより必要と感じます。

坂口…子どもの権利条約には、意見表明権があります。現在、地域と学校、児童館と子どもや児童館運営について話す「運営協議会」があるのですが、今後は子どももメンバーに入れることが児童館ガイドラインに追加されました。

杉山…日野市は子ども条例があるのでですね。素晴らしいです！策定している自治体はまだ多くないので、取り組む地域が、近隣へ広がっていくと、いい作用を生むのではないのでしょうか。地域にこういう条例があるということは、大人が子ども参加に取り組もうという姿勢を助けると思います。

坂口…大人がちゃんと子どものことを考え、受け止める姿勢を見せることは、子どもの自己肯定感につながり、自分を大事にするというマインドにつながるのではないかと思います。日本人の謙虚な気持ちも大切だけど、「自分はこうだ！」って表明する姿勢を応援したいです。繰り返すようになりますが地道にいくしかないと感じます。

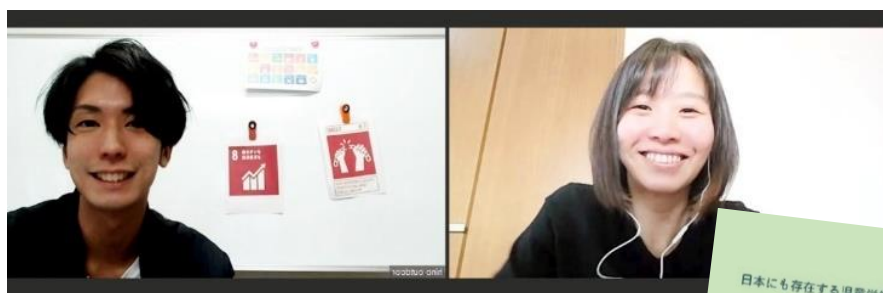
現地点と今後の展望

杉山…前よりも認知が高まっていることは嬉しいですね。新聞やメディアに日本の児童労働も取り上げられるようになり、足元も見erようになった、遠い国の話じゃないということの意識が広まってきたと思います。

す。また日本の子ども達に、権利の主体者であり、意見を言っている、守られる存在だけど、尊重もされる存在だ、と私たち大人がしっかりと理解しコミュニケーションして、伝えていきたいです。ACEがインド、ガーナでやってきたことを今度は逆輸入して日本の子ども達に伝えることが、これから私がACEの中で、一つの軸としてやっていきたいことです。

坂口…お互い、子どもを幸せにする仕事ですね。頑張っていきましょう！

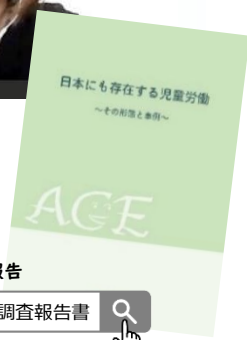
杉山…今回は素敵な機会をありがとうございました。お互い、頑張りましょう！



↑取材はzoomで行いました。

右：認定NPO法人「ACE」で活動する杉山綾香さん

左：インタビュー みなみだいら児童館職員・坂口翼

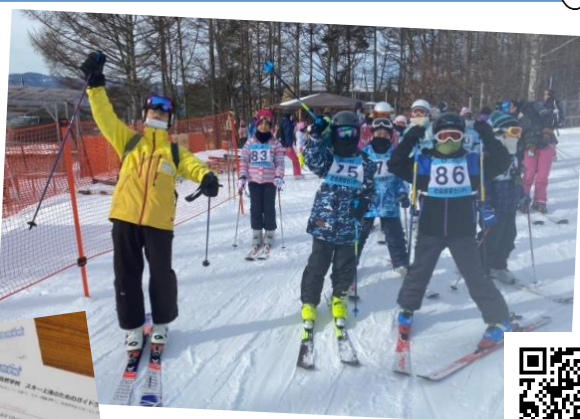
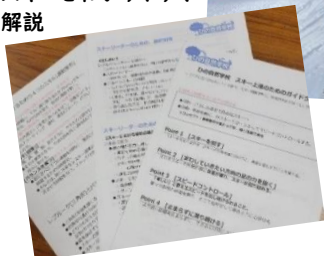


→認定NPO法人「ACE」がまとめた『日本にも存在する児童労働』報告

ホームページで全ページ閲覧可能です。

認定NPO法人ACE 調査報告書

↓『がらメソッド』は、スキーをわかりやすく解説



黄色いウェアのがらさん。
滑走スピードは誰よりも早く、
大学生も追いつけない！



↑対談はwebで!!

表紙の講師は…

講師紹介番外編！

ひの自然学校リーダー

五十嵐民夫さん(がらさん)

20代の頃から、スキー学校の校長先生として、長くスキー指導に携わる五十嵐さん。縁あって、ひの社会教育センターのリーダーとして20年ほど前から活動しています。参加者だけでなく、リーダーへのスキー指導も担当され、今やセンターにとってなくてはならない存在です。

この度、『がらメソッド』なる、スキーの基礎知識からスキル、理論にまで及ぶ指導ガイドラインが完成し、センター職員の寺田とスキーについて熱く語る対談が行われました。その様子はぜひホームページで！

北欧・デンマークから学ぶお話し会

オンライン講座



スピーカー：ピーダーセン海老原さやか（デンマーク在住・公立特別支援学校勤務）



2021年5月からスタートし、3か月ごとに開催しているお話し会。

デンマーク在住の日本人で、現役教員・働くママのピーダーセン海老原さやかさんが、オンラインでお届けする生の声。たくさんの方にご参加いただき、2年目に突入します。

2年目からは会の名前を「北欧・デンマークから学ぶお話し会」とリニューアル。

幸福度が高い国と言われるデンマークの日常から、「自立する心の育て方を学ぶ」、参加者同士の対話を取り入れた参加型お話し会です。さらにパワーアップしたさやかさんと、ゲスト対談者の方、参加者の皆さんとの対話を重ね進めていきます。

学びつづけ、伝えつづける。これは生涯学習・社会教育のテーマでもあります。2022年も一緒に学びましょう！

申し込み受付中!!

日時：5月22日(日) 15:00～16:30

第5回～ずっと学び続ける 学び直せる～デンマークの大人の学び

参加費 2,200円（早割り 1,650円 先着20名限り 申込は2日前まで）

学生さんは参加費500円（窓口扱いのみ）

ご参加お待ちしております!!

デンマーク王国大使館後援



今後の講座予定

6回目 2022年 8月28日(日)

テーマ「デンマーク×高齢者」

参加費 2,200円（早割り 1,650円 先着20名限り）



ひの社会教育センター職員・井上恵里「JOLA2022年アワード受賞！」

日ごろ子どもたちやボランティアリーダーたちと森遊びに興じ、保護者のみなさんからサポートいただいている「ひの自然学校事業」担当ディレクターの井上（えっぴ）が、このほど「ジャパンアウトドアリーダーズアワード(JOLA) U-30賞」というアワードをいただく運びとなりました。

JOLAは、国内の野外教育・アウトドア事業者の中から、ユニークな活動や教育哲学をいくつかの観点で評価し、優秀なポイントを得た指導者やガイドに光を当てるアワードです。多数のエントリーからU-30（若手部門）での受賞となりました。

みなさまにこれまでのご指導ご鞭撻を感謝するとともに、ひの自然学校は今後もユニークで、今と未来を生きる子どもたちにとってかけがえのない時間と経験の機会を参加者と共に創っていきたく願っています。引き続きリーダーや職員への温かいご支援をよろしくお願いいたします！



ジャパンアウトドアリーダーシップアワード
(JOLA) について
<http://jola-award.jp/>



2022年度発表資料
<http://jola-award.jp/news/20220301-2211/>



賛助会へのご協力 ありがとうございます

① 個人会員 1口 1,000円
田中徹・洋子 10口 柿田雅子 110口

② 団体会員 1口 5,000円
いにしえ体操会 2口

★順不同・敬称略